

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
------	--

重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域に愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(最終評価)		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策	
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>『あいさつ』『時間』『身だしなみ』の三点を中心に、基本的な生活習慣の確立を目指して取り組んでいる。概ねできているようだが、高いレベルでの確立についてはまだまだ意識の低さを感じる。</li> <li>・礼法・遅刻・整理整頓の指導をおして、生活を整える習慣を身につけさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の『防げる遅刻』回数を20回以下とする。(昨年度は38回)</li> <li>・校内外で、明るく気持ちのよい、心のこもったあいさつができる。</li> <li>・学校アンケート(保護者)の『基本的な生活習慣の確立』と『あいさつ』の項目の1・2評価の平均を90%以上とする。(昨年度は87%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を守ることの意義を伝え、理解させる。</li> <li>・今まで以上に、授業や部活動、SHR、集会等であいさつの大切さを生徒に伝える。</li> <li>・生徒会執行部、学科、部活動と連携して、『あいさつ運動』に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/25現在、防げる遅刻26回(R2:27回)、通院等による遅刻37回(R2:52回)、総遅刻数63回(R2:79回)とわずかながら減少している。防げる遅刻26回の内訳が、1年12回、2年3回、3年11回と1年生と3年生が多く、科別で見ると、M科9回、E科12回、C科2回、D科3回とM・E科が多かった。</li> <li>・あいさつについては、すべての生徒が気持ちのよいあいさつができていたとは言えないが、12月実施の『学校生活アンケート』の保護者回答(問11・規律・マナーについては1・2評価が87%(7月・86%)、生徒回答(問12・気持ちのよい対応については)も85%(7月・87%)と高い数値を示している。しかし、目標値の90%は達成できなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、教職員が様々な場面で時間を守ることの意義やあいさつの大切さを生徒に話し伝えていながら、教職員自身も積極的な挨拶を心がけ、また、授業や部活動、諸会議等においても時間を守る姿勢を実践し、自らの姿をおして生徒に伝えることを大切にしていこう。</li> <li>・遅刻ボードや遅刻メッセージの有効活用。</li> <li>・今まで以上に、生徒会執行部や各科、部活動と連携し、恒常的な『さわやかなあいさつ運動(仮称)』に取り組む。</li> </ul>
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年4月時点の部活動等加入率(1年94% 2年93% 3年98%)</li> <li>・生徒会執行部の学年別構成(1年0人 2年6人 3年19人)</li> <li>・執行部会は生徒会行事前のみ開催</li> <li>・学校生活アンケート結果(昨年7月→12月) 学校行事に楽しく参加協力できた 81%→90% 部活動に積極的に取り組んでいる 87%→82%</li> <li>・生徒部生徒会担当による「指導」「誘導」が目立つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率の引き上げ(従来は、部活動加入率で評価していたが、今年度は執行部加入も含めてカウントし、加入率95%以上を目標とする)</li> <li>・執行部への1.2年生の積極的参加</li> <li>・生徒会執行部会およびクラブ運営委員会の定例化 &amp; 活性化</li> <li>・生徒自身による主体的な体育祭・学校祭の企画運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動未加入者への執行部・学校実行委員会への参加呼びかけ</li> <li>・LHR等での学年レクでの執行部員の活用</li> <li>・会議の定例化と、Googleクラスルームの活用</li> <li>・他校の学校祭の見学や執行部との交流の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月時点での加入率は、1年生86%、2年生96%であり、1年生の退部傾向が目立つ。執行部の加入は、1年生7人、2年生15人と漸増傾向にある。</li> <li>・コロナ禍にあって、Googleクラスルーム等を活用した新しいスタイルを展開してきた。</li> <li>・生徒会行事の運営準備については主体的に取り組めているが、企画立案段階での創造性発揮の部分で課題が残る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度に向けて、新2年生への強力な部活動加入の呼びかけをする。</li> <li>・GIGAスクール化を受けて、スマホも含めた情報端末の一層の活用推進をはかる。また、一方で使用ルールの見直しを進めていく。</li> <li>・執行部会の定例化。</li> </ul>
2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。</li> <li>・就職希望者支援体制についてはできているが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など大学個別の理解と対応が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。</li> <li>・小論文指導等の進学希望者に対する支援体制を充実させる。</li> <li>・年度内に就職内定率を100%とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。</li> <li>・大学入試に関する情報収集を行い、入試改革に対応した指導を、学習指導委員会で提案していく。</li> <li>・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。</li> <li>・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学、オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用していく。</li> <li>・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職78名、進学63名(四大11人、短大12名、専門学校40名)の進路が決まっている。就職希望者については全員内定をいただいている。</li> <li>・入試改革にともない学校推薦型選抜で学科試験や小論文が課されるケースが増えたため、個別指導で対応した。</li> <li>・本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、就職については応募前職場見学や就職試験が、進学についてはオープンキャンパスや入学試験がリモートにより行われることがあり、その件数は昨年度より増加したが事前に準備をして対応した。</li> <li>・進路講演会、進路学習会、進路説明会を実施するにあたり、新型コロナウイルス感染予防の観点から、実施方法や開催時期を変更しながら開催した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面接を積極的に行いながら早期に進路意識が高められるよう指導を徹底する。</li> <li>・3年生の就職希望者に対してより確実な進路指導を行うために、年度当初に進路部就職担当との面談を計画する。</li> <li>・進学合格後も個別指導を継続することにより、進学後に必要な科目の学びに対応できる力をつけていく。</li> </ul>
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路部で資格・検定を推進している。生徒は積極的に各科目で目標としている資格・検定に挑戦している。</li> <li>・多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをおして正しい職業観を養っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる資格取得を意欲的に取り組ませる。</li> <li>・全ての生徒が正しい職業観を持ち、就職及び進学の準備を早くから行えるように、低学年から進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実をさせ、勤労観・職業観を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。</li> <li>・多様な進路選択を可能にするために資格取得にチャレンジするように促す。</li> <li>・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各検定試験で受験者が増加している。1年生から難易度の高い検定に合格する生徒、社会人向けの資格検定に挑戦し合格した生徒もいる。</li> <li>・M、E、C、D科のインターンシップは、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を中止したが、各科目で出前講座や学校訪問等を新たに企画して実施した。ビジネス実習は7月は中止したが12月は実施し、生徒の職業観や勤労観を養うことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格試験の合格に向けて、自発的に取り組む生徒の育成に努める。</li> <li>・インターンシップ、ビジネス実習は、生徒の職業観や勤労観を養ううえで重要な役割を果たしている。実施できなかった場合に備えて、それに代わる企画を年度当初から準備する。</li> </ul>
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学習規律は身につけているが、生徒の基礎学力や学習意欲に大きな差がある。定期考査や資格取得などに関する学習には意欲的であるが、それ以外の家庭での学習時間は少ない生徒が多い。</li> <li>・授業時間数の偏りが生じている。</li> <li>・自習時間は減っているが、売り買いボードの活用状況は十分ではない。</li> <li>・進路に応じた選択科目の履修ができるよう見直しているが、新学習指導要領に向けての検討も含め、引き続き見直しを行う必要がある。</li> <li>・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができず生徒が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。</li> <li>・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。</li> <li>・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。</li> <li>・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。</li> <li>・各教科で課題の出し方等を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化できるよう取り組む。</li> <li>・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的に行い、授業が自習時間とならないように取り組む。</li> <li>・選択説明を丁寧に行い、進路希望に合った履修を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の習慣化に向けて、学習状況調査や課題のあり方などを教科主任会などで検討したが、十分な自立を行うまでには至っていない。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響により出張等が減り、例年よりも自習の数が少なかった。</li> <li>・分散登校・オンライン授業などで授業の確保など急な対応を求められたが、大きな問題もなく実施することができた。</li> <li>・選択科目に関する説明会を学年ごとに行い、2度の希望調査を経て期日までに決定することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での課題のあり方について見直し、家庭学習が習慣化する対策を検討する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しても、密を避け通常に近い授業形態での実施に向けて準備しておく。</li> <li>・授業の入れ替え等を継続し、自習時間の削減・授業時間確保に努める。</li> </ul>
思考力・判断力の向上【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。</li> <li>・達成感や自己肯定感を持った生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決にむけて、思考・判断に必要な知識や情報を蓄積させる。</li> <li>・授業公開や授業互見、教職員研修会をおして学び合いを促進し、授業改革を行う。</li> <li>・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめ。</li> <li>・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの教科で公開授業を実施しているが、参加者が少なく学び合いに向けた意見交換が少ない。</li> <li>・生徒が落ち着かない状況での授業が見られる。</li> <li>・新教育課程や学校設定科目などの検討に必要な申請手続きを進めることができた。</li> <li>・ICT活用職員研修を実施し、来年度の授業に向けた準備を始める機会を設けた。</li> <li>・コロナ禍ではあるが体育祭・倉祭など生徒の活躍する場を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業を早めに予告し、積極的な参加を促すとともに、年間に自教科と他教科1つ、計2つの授業を参観することを目標とする(授業実践者は他教科1つを参観する)。</li> <li>・学習規律を徹底する。教科担当だけでなく、学年・科など関わる職員で対応する。</li> <li>・引き続き、分掌・学年と協力して生徒の活躍できる場を確保する。</li> </ul>	B		
地域とともにある学校づくり(学校運営協議会)【管理職】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、地域が誇れる学校を目差し、学校の情報発信とともに地域の人材やアイデアの活用するために学校運営協議会を立ち上げたが、年2回の開催にとどまり、委員の方に学校に関わっていただく場面で限定的で、本来のコミュニケーションの有り様としては物足りない。</li> <li>・学校運営協議会の委員をはじめ、地域の方に対しての具体的情報発信が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方の関わりが増え、地域が誇れる学校に近づいている。</li> <li>・多くの生徒が各分野に長けた地域の方と関わり、進路意識の高揚と地域貢献への思いを強く持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校カレンダーを始め、行事予定や主要な行事の要項等を運営協議会の委員に配布し、委員の方が学校に足を運びやすい状況をつくる。</li> <li>・ホームページ等による情報発信及び情報更新を頻度高く行うとともに、行事予定や要項等を協議会の委員に提示していく。加えて、学校運営協議会での意見を適宜、教職員や生徒会に提示しながら、スピード感をもって改革につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回学校運営協議会を開催し、委員の方に学校の紹介や教育全般についての貴重なアドバイスをいただいた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響も強く、昨年度に引き続いて学校行事等に制限がかかったが、不十分ではあるが、生徒の様子を見学いただくことはできた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の委員だけでなく、地域にもっと学校を知ってもらい、地域が誇れる学校を目指すために行事等での地域連携やHPや広報による学校紹介をより充実させていく。</li> </ul>	
地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新が遅く、情報の発信が少ない。学校についての情報提供が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新が頻繁に行われ、常に学校行事や各科の学習活動・部活動の大会状況が配信されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報提供をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事などについて、積極的に担当者からホームページの更新が行われていた。学校祭では動画を配信した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページがさらに充実するように、更新頻度の少ない学習活動・部活動に依頼する。</li> </ul>	

		年度当初			評価結果(最終評価)				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	改善方策			
3 地域に 変えられる、 信頼される 学校づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等とおして、自分の希望する企業について業務内容などを理解している。 ・社会にでた際、資格取得が重要であることを理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等で産業界での取り組みや意識を知る機会を設ける。企業見学については、コロナ感染拡大にそなえ、Webで対応できるよう準備しておく。	・7月に予定していた「インターンシップ」は新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止としたが、代替として、一般財団法人日本自動車連盟に依頼し校内でレッカー車を借りて体験を実施した。	B	・コロナ禍においても、産業界での取組や意識を知る機会を失わないよう準備しておく。		
		・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動について、地区民生委員の方と鳥取県電業協会中部支部と連携をし、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業との交流が図られている。 ・地域の家庭に Outreach、奉仕活動を行うことで地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会でイルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動前後で民生委員、鳥取県電業協会中部支部、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会は中止となったが、適宜連絡を取り合い、倉吉交流プラザのイルミネーション設置・点灯式を無事完了することができた。 ・「倉総電気福祉活動～電気を通して福祉を考える～」については、倉吉市社会福祉協議会とおして、住民の要望も事前に詳しく知ることができ、地域との交流が図られた。	A	・来年度も鳥取県電業協会中部支部及び倉吉市社会福祉協議会との連携を深め、今後も活動を継続していきたい。		
		・新型コロナウイルス感染拡大の影響から、課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」の実施回数が減少した。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症予防をしっかりと実施しながら、新商品の開発等学習内容の充実に向けていく。	・7月の「ビジネス実習」と「インターンシップ」は新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止とした。 ・課題研究「くらそうや」では、事業先と連携し、オリジナル新商品を5品開発した。 ・課題研究「くらそうサロン」「くらそうや」は新型コロナウイルス感染症に留意し、回数は減らしたが、多くの方の参加があり、毎回好評を得た。	A	・各事業所からの実施後アンケートを参考にし、事前学習の内容を見直し充実させる。 ・「ビジネスセミナー」で作製している学校カレンダーを、地域住民へ配布することを検討する。		
	グローバルな人材の育成 (世界規模で考え、地域で行動する人材) 【各学科】	・意欲的に交流しようとしているが、どう楽しんで参加してもらおうかという視点が弱い。計画を立てるまでに至っていない。	・交流する相手の事を考えて計画を立てられるようになる。 ・異年齢の方々や交流することにより、コミュニケーション能力が高まっている。	・施設の方や社会人講師方の意見を伺いながら、交流の計画を立てる。 ・学習した知識や技術をいかに、生徒が主体的に行動できるよう具体的な例示を示しながら指導する。	・施設の方や社会人講師方の意見を伺いながら、交流の計画を立てた。 ・学習した知識や技術をいかに、生徒が主体的に行動できるよう具体的な例示を示しながら指導した。	A	・引き続き連携をしながら、実習を行う。		
		・日頃の学習内容は理解できているが、それが地元の産業と、どうつながっているかまでは理解できていない生徒が多い。	・地元企業がグローバルに活躍されていることを知り、学ぶことの意識が高まっている。	・地元企業が製造されている部品が、産業界にどれだけ貢献しているか伝える。	・2月に行う1・2年生の企業見学について、地元企業の選定を行い、産業界への貢献度について生徒に伝える下調べを行っている。	B	・生徒の意識を喚起した上で企業見学を実施し、自分たちにはどんな貢献ができるかを考えさせていく。		
		・新型コロナウイルスの関係で長期インターンシップを行うことができなかったが、通常のインターンシップにおいて、生徒の就業意欲が高まり、基本的な技術を身につけることができた。	・インターンシップをおとして、就業意欲が高まり、キャリア教育に対する取組の向上が見られる。	・事前の安全教育を行うことで就業意欲を高める。 ・インターンシップ最終日は各企業が学校に集まり、生徒に対して一斉の研修を行う。	・3日間のインターンシップは、新型コロナウイルス感染症への対応のため中止としたが、代替事業として1日インターンシップを行うことができた。生徒の事後アンケートの結果でも「大変良かった(59%)」と「良かった(41%)」を合わせて100%だった。また、事前の安全教育も行うことができた。生徒は、体験を通して進路意識を高めることができた。	A	・より進路意識が高まるよう、事前の安全教育の他に、体験前の事業所について調べ学習の時間を設けることも検討する。		
		・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先が少なくなっており、やむなく希望に合っていない実習先で体験する生徒がいた。	・生徒が希望する事業所での体験を通し、積極的に実習に取り組み、人間力と進路意識の向上が図られている。	・就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先の新規開拓をする。 ・事前・事後の指導を徹底充実させる。	・就業体験学習の受入事業所2社の新規開拓をした。12月の「ビジネス実習」は感染症対策に留意し、生徒の希望に沿うところで実施できた。生徒それぞれが目標を持って実習に臨み、実習先からの成果報告により、自己を客観的にとらえ人間力向上と進路意識が高まったことが分かった。	A	・課題研究各講座の研究内容や就業体験学習で学んだことを、学科全体で共有し、地域の人や産業界への関心を高めさせる。		
		・学校での学習を地域の産業にどのように活かしたらよいか、理解できていない生徒が多い。	・地域産業について理解でき、自分たちが学習したことの成果などを、発信することができる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。 ・企業等と連携し、「商品開発」を行う。	・企業見学は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施せず。 ・企業等と連携し、「商品開発」を実施した。県内外から好評だった。	A	・コロナ禍でもできる企業見学を検討する。		
		4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、 チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	・昨年度は初めて挑戦する資格に積極的にチャレンジした生徒もいたが、まだまだ受け身の生徒も多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて努力できている。	・生徒が資格取得に積極的に向かうよう呼びかける。 ・資格を取得することで達成感と自己肯定感を感じさせる。	・製図検定、基礎製図検定、各種技能検定では合格に向けて計画的に補習を実施した。 ・2年生については昨年に引き続き全員がCAD検定(CSWA)を受検した。	B	・今後も、生徒が資格・検定にチャレンジするように促していく。
				・鳥取県電業協会中部支部に高校生ものづくりコンテストの指導を受け、2名の生徒が中国大会出場権を獲得した。	・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術の向上を図る。	・高校生ものづくりコンテスト電気工部門大会に1名が出場し、優勝することができた。	A	・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応から、鳥取県電業協会中部支部の技術指導を受けることが出来なかったが、令和4年度は状況をみて技術指導を受けることも検討する。
・ほとんどの生徒が資格取得に積極的意欲的に取り組み成果を出している。 ・生徒間に著しい学力差がみられ、一斉授業に苦しんでいる。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。			・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開をしていく。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。	・夏季・冬季休業期間、検定直前期に、課外授業や補習を実施した。 ・商業実技競技大会のワープロ・簿記・珠算電卓の部で全国大会に出場した。	B	・卒業までに全商1級3科目合格を共通目標に掲げ、チャレンジさせる。 ・ビジネス研究部以外の生徒達にも、商業実技競技大会への参加を促し、挑戦させる。		
・意欲に個人差があり、取り組み状況がさまざまである。	・検定試験を積極的に受験する。また、コンテスト等に応募している。			・検定受験、コンテスト等への参加を促す。	・家庭科技術検定受験者が、若干増えた。コンテストに応募することができた。	A	・検定に挑戦する意欲が育つよう授業内容の工夫をはかる。		
5 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・総合選択制を活用し他学科の科目を積極的に履修できるよう働きかけができていく。(A選択・電気基礎・アプリケーション演習)	・将来を見据えた適切な科目選択ができていく。 ・機械科以外の科目について学ぶことも重要であることを知る。	・自分の進路を見据え、自科のカリキュラムでは学べない内容を総合選択制を活用し習得するよう指導する。	・選択科目説明および総合選択制の活用方法について説明し「電気基礎」や「アプリケーション演習」などの選択者を募ることができた。 ・「くらそうや」で使用するスタンプを作製し、スタンプラリー企画に協力できた。	B	・他科との連携を意識し、要望があれば応えていく。		
		・くらそうやにおいて、「おもちゃの病院」及び「商品提供」を行うことができなかったが、課題研究「テクニカルボランティア」においては、おもちゃの修理を行うことができた。 ・家庭学科の車椅子修理をするなど、他学科と連携することができた。	・くらそうやに電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができていく。	・課題研究「テクニカルボランティア」をおとして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。	・「くらそうや」において、商品提供及び「おもちゃの病院」を行うことができた。 ・家庭学科の車椅子3台と保健室の車椅子1台を修理するなど、他学科と連携することができた。	A	・令和3年度、「おもちゃの病院」については、依頼件数が少なかったことを踏まえ、令和4年度は早期にPRを行う。		
		・課題研究「くらそうや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらそうや」の商品を提供する他科に、消費者の反応や意見をフィードバックすることで、ニーズある商品作りに活かされている。 ・ビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴く。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」「ビジネス基礎」の魅力を伝え、履修を促す。	・「くらそうや」のスタンプラリー企画で使用するスタンプを機械科に作ってもらった。営業回数が少なかったこともあり、お客様の意見を他科の商品作りに反映させることはできなかった。 ・他科選択「アプリケーション演習」では履修者全員がビジネス文書実務検定に挑戦した。	B	・総合選択科目「ビジネス基礎」の魅力を分かりやすく伝え、履修者を増やす。 ・「くらそうや」のお客様と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を他科にも伝え、商品作りに生かしてもらおう。アンケートをとることを検討する。		
		・ビジネス科と連携し、くらそうやへ商品提供を行っている。	・くらそうやに商品の提供している。 ・工業学科とも連携を行っている。	・他学科との情報交換を積極的に行い、連携の方法を模索する。	・「くらそうや」に商品を提供することができた。工業学科とも連携をしたが、活発な連携とはならなかった。	B	・情報交換を頻繁に行い、連携できることがないか、模索する。		
・学校全体の時間外業務について昨年度は平成29年度比50.3%減と大幅に減少したが、個々を見ると、月45時間、年360時間を超える教職員は少なくない。改善が必要である。 ・部活動自体は県のガイドラインや本校の規定に従って運営されているが、複数顧問の役割分担が不十分で、時間外が多くなっている教職員は多い。	・全県における時間外業務の上限である月45時間、年360時間を遵守する。 ・複数顧問の業務分担を意識し、毎月の部活動計画を早めに作成しながら各々の顧問の時間外業務が月45時間を超えない。	・衛生委員会等を活用しながら、各々の時間外業務の内容を分析し、その原因について対応を講じる。 ・勤務時間の割振の徹底や長期休業中の休暇取得に対する呼びかけを行い、時間的な時間外業務の量だけでなく、心身のリフレッシュ及びストレスの軽減を行う。	・時間外業務の削減に向けて衛生委員会や職員会議等で対策を講じたり、呼びかけを行った。しかし、結果としては昨年度と比して、削減とはならなかった。 ・職場で業務を分担し、分け合う雰囲気は醸成できていない。個々の時間外業務の削減の意識も教職員の評価アンケートの結果を見ても大きく向上してはならず、今後の課題でもある。 ・11月の職員会議で業務改善について、対策の道筋について提案したことは今後につながる。	C	・部活動については引き続き、計画表や実績簿を確認しチェックを行いながら、業務削減に努めていく。 ・業務を個人のものでなく、分掌や科、学年で考えていくことが肝要。場合によってはクラスや教科をまたいで分担を決め、個人に業務が集中しないように考慮する。				

A [90%以上] B [89~70%] C [69~50%] D [49~30%] E [29%以下]